

\*\*\*\*\*

日本化学連合 第5回シンポジウム

「共に生きよう 世代を超えて — 今後の日本の科学技術・教育を考える」

\*\*\*\*\*

【主 催】日本化学連合

【後 援】科学技術振興機構、経済産業省、新化学技術推進協会、日本学術会議、日本化学会、  
日本化学工業協会、文部科学省（依頼中を含む）

【会 期】平成24年3月7日（水）13：00～17：00（交流会 17：30～19：00）

【会 場】化学会館（千代田区神田駿河台1-5）

【アクセス】<http://www.chemistry.or.jp/kaimu/office/map.html>

【参加費】無 料

【開催趣旨】

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、地震と津波によって多くの人命を奪い、土地を奪い、産業拠点を消滅させた。引き続いて起こった福島第一原発の事故は、放射性物質の拡散という異常事態を引き起こし、未だに様々な問題を残している。

これらの一連の未曾有の大災害は、戦後の日本における最も深刻な事態をもたらした。その結果、我が国の現状は科学技術の先進国として発展途上国を支援し、経済発展した豊かな国であった以前の状況とは、明らかに違っている。

この困難から脱却するには、国民が世代を超えて一丸になり、中長期の日本の将来を見据えながら、迷走することなく正しい目標に向かって進んでいくことが必須である。天然資源に乏しい日本にとっては、今まで以上に人を育て、知的財産を豊かにし、国際競争力を高めていくことが不可欠であり、特に科学技術分野は、それらを必要とする最たる分野である。したがって、エネルギーや環境、最先端産業などを支えるこの分野の今後のシナリオをどう描くかは、日本の将来を左右する重要な課題であるといえよう。

本シンポジウムでは、震災から1年が経過した時点で、震災前後で日本の何が変わったのか、何が変わらないのかを冷静、正確かつ詳細に分析し、そこから今後の科学技術や教育のビジョンを描き出し、それに対して、官界（国）、産業界、学界が、どのように取り組むべきかを具体的に提案して討論する場を設ける。ここでの議論が、何らかの最終結論を導き出すものではなく、産官学が一体となった科学技術による日本復興に向けて、大きく加速する機会になることを期待する。

## 【プログラム】

- 13 : 00～13 : 10 開会挨拶・趣旨説明 日本化学連合 企画委員長 西原 寛
- 13 : 10～13 : 20 挨拶 文部科学大臣 平野 博文(依頼中)
- 13 : 20～14 : 00 講演「包括的な立場から(仮題)」  
総合科学技術会議議員 相澤 益男
- 14 : 00～14 : 40 講演「新しい日本の構築に向けたイノベーション力の向上策」(仮題)  
経済産業省大臣官房審議官 中西 宏典
- <休憩>
- 14 : 55～15 : 35 講演「化学産業から見た世界」  
株式会社三菱ケミカルホールディングス社長 小林 喜光
- 15 : 35～16 : 15 講演「震災と科学そして化学」  
NHK解説主幹 早川 信夫
- 16 : 15～16 : 55 講演「世界と日本の「持続」に貢献するアカデミアの使命」(仮題)  
日本化学連合会長 御園生 誠
- 16 : 55～17 : 00 閉会挨拶 日本化学連合副会長 中井 武
- 17 : 30～19 : 00 交流会

## 【申込申込み方法】

連絡先・所属・氏名を明記の上、E-mail または FAX にて下記に申し込みください。

## 【申込・問い合わせ先】

日本化学連合事務局長 石田 裕

電話 : 03-3292-6010 / FAX : 03-3292-6319

E-mail : [ishida@jucst.org](mailto:ishida@jucst.org)